

第5回化学系，環境系，医工系国際若手シンポジウム 報告

末永智一

東北大学とアジアの著名大学との間で学生ワークショップを開催し，化学系，環境系，医工系学生の国際交流を促進したいとの意図のもと，2006年より開催したワークショップも今回で5回目となった。第5回のワークショップは，5th International Symposium on Chemical-Environmental-Biomedical Technology for Young Researchers (isCEBT)と銘打たれ，本学の環境科学研究科，工学研究科において，平成22年9月5日（日）-8日（水）に開催された（日程は下記）。

- 9月5日（日） レジストレーションと歓迎会
- 9月6日（日） 学生発表会，教員発表会，懇親会
- 9月7日（日） 学生発表会，仙台市内見学
- 9月8日（日） 宮城県近郊見学

このワークショップは，東北大学環境科学研究科，工学研究科，グローバルCOE“分子系高次構造体化学国際教育研究拠点”，および国立成功大学の主催，青葉工学振興会の共催によるもので，日本側は4大学より教員12名，学生49名が，台湾側は3大学より教員9名，学生31名が参加（内訳は下記）し，学生の運営委員会を中心に末永教授（環境科学研究科），猪股教授（工学研究科），石原博士（工学研究科）がアドバイザーとして，企画運営を行った。

参加者総数 101名 教員 21名 学生 80名

台湾側 教員 9名 学生 31名

- 成功大学 教員 5名 学生 17名
- 清華大学 教員 3名 学生 10名
- 中興大学 教員 1名 学生 3名
- accompany person 学生 1名

日本側 教員 12名 学生 49名

- 東北大 教員 9名 学生 45名
- 山形大 教員 2名 学生 2名
- 秋田大 教員 1名 学生 1名
- 岩手大 学生 1名

台湾の参加者は 5 日(日)の台北-仙台便にて仙台空港に到着し、出迎えの本学学生と合流し、ホテルのチェックインを行った後に、青葉記念会館に到着した。レジストレーションを行った後、Welcome reception を行った。東北大の猪股教授と清華大の Ruey-an Doong 教授の挨拶の後、しばし歓談を行った。今回の welcome reception では、学生の発案でくじ引きを行い、各テーブルに台湾と日本の学生を均等に配置した。最初、学生たちは一様に緊張した面持ちであったが、途中、学生による本ワークショップ参加 7 校の紹介が行われた頃には打ち解けていたようであった。

6 日(月)に本ワークショップの研究発表会を化学系大講義室にて行った。口頭発表に先立ち Opening Ceremony が開かれ、東北大学からは中山教授が、成功大学からは Liang-Ming Whang 准教授が挨拶を行った。午前中に行われた環境系のセッションでは 8 件の口頭発表を行った。練習の成果もあり、発表はスムーズに行えた。質疑討論では若干言葉につまることもあったが、両大学の学生ともに英語を母国語としていない一種の安心感もあり、なんとか切り抜けることができたように感じる。12時から14時半まで昼食を兼ねたポスターセッションを総合研究棟 110 号室にて行った。発表件数は 48 件であった。本セッションでは、参加人数に対して会場の狭さが懸念されたが、人の密度が高いことも相まって白熱したポスター発表となった。14時45分からは化学系のセッション及び環境系のセッションが行われ、これらのセッションではそれぞれ 5 件、4 件の口頭発表が行われた。

また、この時間に、別室にて本ワークショップ参加教職員による、大学紹介及び、研究成果報告会が行われた。発表件数は 10 件であった。その後のミーティングでは、このワークショップの次年度(第 6 回)の主催校が清華大学に、開催時期を 2011 年 9 月初旬にすることが決まった。また、本ワークショップの正式名称を International Symposium on Chemical-Environmental-Biomedical Technology for Young Researchers (isCEBT)とすることが決定され、研究発表会の 1 日目は終了した。



welcome reception にて挨拶をする猪股教授



口頭発表会場の様子



ポスター発表会場の様子

夜には、総合研究棟 1 階エスパスコマーにてバンケットが催された。両大学の学生が同じテーブルを囲み、バーベキューを楽しみながら両国の文化・慣習などいろいろな情報交換をし、どちらからともなく積極的に談笑したりする様子が見受けられた。解散後、学生同士が自発的に飲み会を開き、夜遅くまで親交を深めていたようである。

7 日（火）は学生による研究発表会の 2 日目であった。この日は昼食をはさみ、化学系と環境系の口頭発表がそれぞれ 5 件、及び 8 件なされた。この頃になると学生との交流が深まったこともあり良い意味で緊張感が取れ、どんな基本的なことでもいいからぎごちなながらも英語で積極的に質問しようという姿勢を見せる学生が多くなったように思われる。また末永教授、中山教授、吉岡教授と台湾の教員間昼食を兼ねた会議を行い今後の交流についてより深い議論を行った。参加人数は 11 名であった。その後、15 時 15 分から Closing Ceremony が開かれ、東北大学の吉岡教授と東北大学学生オーガナイザーの D1 の梶原剛史氏がお別れの挨拶を行い、次回ワークショップ開催のお知らせを精華大学の Chien-Hou Wu 准教授が行い、研究発表会のスケジュールを全て終了した。その後、学生たちは 10 名弱の班に分かれて、仙台の街に行き、買い物や食事などを通じて、さらなる交流を深めたようである。

8 日（火）は学生主催の宮城県近郊見学として蔵王に赴き、お釜の見学と蔵王チーズ工場におけるチーズ作り体験が行われた。台風の影響で天気が心配されたが、無事お釜を見学できたようである。



集合写真

今回のワークショップは、東北大学と成功大学、清華大学だけでなく、中興大学、秋田大学、岩手大学、山形大学と少数名ではあるが参加があり、台湾の主要国立大学と日本の東北地方主要国立大学のワークショップとなってきたことが実感できる規模となった。また、派遣校が学生の旅費等を負担する、という原則もこの種のワークショップを継続させるためにも必要である。さらに近年、参加校が増えて来るにつれ、豪華になる傾向にあったが、原点に立ち返り参加校は増やしても質素に行うことが本ワークショップを継続する上で必要であると言うことが各校の教員間で一致した。今回参加しなかった学生が参加学生に話を聞いて、来年度は参加してみたいといった声も聞かれ、本ワークショップは今後も日本と台湾の学生交流に大いに貢献するものと考えられる。

化学系, 環境系学生国際ワークショップ in 東北大学 スケジュール

| | | |
|--|-------------------|------------------|
| Sept. 5 (Sun) welcome reception | | |
| 17:00 – 20:00 | 青葉記念会館 3階四季彩 | |
| Sept. 6 (Mon) Workshop | | |
| 9:00 – 9:30 | 化学系大講義室 E05 | Opening Ceremony |
| 9:30 – 10:30 | | 口頭発表 4件 |
| 10:30 – 10:45 | | 休憩 |
| 10:45 – 11:45 | | 口頭発表 4件 |
| 12:30 – 14:30 | 工学研究科総合研究棟 110 | 昼食 & ポスター発表 48件 |
| 14:40 – 17:25 | 化学系本館 W405 | 教員発表会 |
| 14:45 – 16:00 | 化学系大講義室 E05 | 口頭発表 5件 |
| 16:00 – 16:15 | | 休憩 |
| 16:15 – 17:15 | | 口頭発表 4件 |
| 18:00 – 20:00 | 総合研究棟 1階エスパス コマーン | バンケット |
| Sept. 7 (Tue) Workshop | | |
| 9:30 – 10:30 | 化学系大講義室 E05 | 口頭発表 4件 |
| 10:30 – 10:45 | | 休憩 |
| 10:45 – 11:45 | | 口頭発表 4件 |
| 12:00 – 14:00 | 化学系本館 109 | 教員会議 |
| 14:00 – 15:15 | 化学系大講義室 E05 | 口頭発表 5件 |
| 15:15 – 15:45 | | Closing Ceremony |
| 16:00 – | 仙台市中心部 | 仙台市内見学 |
| Sept. 8 (Wed) | | |
| | 蔵王 | 宮城県近郊見学 |